

定部金貳圓 廣五號十二休日 印刷所 本社專屬陽社

常新新聞

發行編輯人 川崎文治

印刷所 福島縣石城郡飯沼町十一番地

電話六三〇

刊夕日七十二月八

葡萄酒 元造製密實果

通前所役郡町平

佐藤葡萄酒舖

常磐文藝

折にふれて

(盛夏の頃の作) 明 愛

◇さら〜とボブラの葉すれ心よきあをわのうすき香りのせ来て

◇うすものけだじつろひ街を行くひとのおかしき夏の日の風

◇緑り濃うふる夕立のつぶて雨憩ふ木陰にわが袖をうつ

◇真砂ほど集へる濱の浴み場に知りひとすくなくみづとかなしむ

◇日やけ肌むくがごとじやがいの皮むきて食す午後の日盛り

◇人の子てふ思ひはこむるしら砂によこたえて聞く濱松のかせ

◇海濱の遊び樂しと音信せばまたも病みぬと兄はおこしぬ

小僧さん入用(有聲座隣) 喰べてたいしい

奉仕的特價 平素の御用立に酬ゆる爲め

商品全部 正札の一分

特別割引 五分

時計眼鏡貴金屬商

金光堂計店 平町五丁目

亡妻新益に就ては提灯其他供物御贈惠の儀は甚だ乍勝手御辭退申上度候に付何卒御諒承被下様願上候

田町

遠藤平兵衛

亡父新益に就ては提灯其他供物御贈惠の儀の甚だ乍勝手御辭退申上候間不惡御諒知の程願上候

田町

森本盛一

故タイ新益に就ては提灯其他供物御贈惠の儀は時節柄に付き一切御辭退申上度く此段御諒察願上候

平町三丁目

渡邊政五郎

カフェースズラン 電話一四五番

常磐論壇

七夕祭 (二)

満壽莊

織女さんも御亭主の傍にはかりへばりついて居たものだから父天帝の怒に觸れたのでしやうが天帝も随分惨酷な成敗をしたものです

それから此二星にいろ〜なもの供へる譯は周處風土記と云ふ書に

七月七日の夜庭を洒掃してあらはに几筵を施し酒ホ時の菓を設け香粉を河鼓織女に散し云々

河鼓とは牽牛の異名です注に曰く二星會するに當て夜を守る者皆私願を懷

亡父篤光院新益に就いては遺言に依り提灯其他の御贈與品一切辭退仕度此段得貴意候也

平町一丁目久井屋號

吉田彦太郎

亡母普照院新益に就ては提灯其他の御贈與の儀は甚だ乍勝手御辭退申上候に付き御諒承被下様願上候

平町南町

大泉信雄

亡夫大隆院の新益に就てはその遺言に基き提灯其他の供物御贈與の儀一切御辭退申上度く何卒此段惡しからず御承知の程願上候

平町三丁目丸又

久野喜久子

或は云天漢の中を見るに變々たる白氣あり光耀とす見る者拜して願ふに富を乞ひ壽を乞ひ子なきは子を乞ふ唯一を乞ふ事を得兼求むることを得ず三年にして是を云ふ頗る其祚を受るものあり

吾々は七夕の晩にいろ〜の飾り物をするのは二星の相會ふのを祝福するものだと許り考へて居たのにかうしてお願ひするとこんな事でも一つを叶へて下さるとは七夕様もなか〜有難いものです

◎紀貫之家集にかう云ふ歌がある

片寄産婆方 東帝國醫科大學産婆復習科 卒業 鈴木ミエ

◎妊婦産婦御預り致します◎御困りの方には無料でお扱ひ致します

平町南町

看護婦派出の求めに應ず

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

柏傳の 全刺子ト染物 柏屋染物店

平町田町(呼電話三三三番)

業開婆産

正價 四十五圓

の特價 三十五圓

會田時計店 電話三六三

謹啓殘暑之候各位益々御繁榮の程奉賀候就ては當家亡父母之新益に候へ共節約の折とて提灯其他の供物御贈與の儀一切御辭退申上度何卒此段惡からず御承知の程願上候

萩の家

長瀬壽雄

平町南町

ユ一ホン號 特價提供

世をうみて我かす糸を七夕の涙の玉の緒とやなるらん

又辨内侍の歌に

秋來ても露お袖のせばければたなばたつめに何をかさまし

又曠野集と云ふ俳書に

七夕よ物かすこともなきむかし 越人

以上の様に七夕にいろ〜の物を貸し供へるのは七夕に巧を乞はんが爲であつて七夕の一名を乞巧奠とも云ふのである

(つゞく)



外間をはばかり 虚偽の申告が多い

今秋の國勢調査には 正直に……と郡當局談

日本の人口と戸数はどれ位づつ増加して行くか？……この問題から割り出して、大正九年十月政府が最初の國勢調査を行つてから今年規模五年目に小規模の調査を行ふ」の規定によつて

小規模

の調査が来る十月一日に執行されることになり石城郡役所ではこの暑さにもめげず、その準備にいそがしいが大正九年の大仕掛けの調査の時には虚偽と名譽心が手傳つて虚偽の

申告を

したものが多かつたので調査員は書出された申告書を前に頭をひねつて判断に苦しむのが多かつた、その一例を挙げれば月収も倍に近いまで引上げたり、甚だしいのに至つては實際失業中で大困りに

毎日職

あさりをやつてゐるのに、世間の手前妙な所にはいかんで「何々業」と云つてのけ自分も困つた調査員もまご付かせたりしたのがあつた、さうかと思ふと親と子ほど年違ひの夫婦を姉とか

伯母

云つて出しその實詳細調べると歴とした妻であつたと云ふ嘘の様な本當の話もあつたが、こ

一日一言

藤田女學校長 藤田榮助氏

般の洋服講習會で収入は二百圓近くありました。が收支決算に依ると百數十圓の欠損を來して居ります。是には勿論最初から損益を度外視して掛つた仕事ですから當然です。ただ藤田の講習會に列席して非常に「裨益する處が多かつた」と満足して載ればそれで充分と考へるので

規定が

あり若しこの禁を破つて公表したり噂話に持ち出したりして他人に迷惑をかけた場合は「罰金か或は科料に處す」との處罰令があり申告者にもこれ

同様の

規定があるこんな次第で今年の十月の調査に是非眞面目に申告してくれと當局の意氣込みは大したものだ

撫順炭使用で 常磐炭打撃 反對の運動を

鐵道省では昨年來の減収を

幾分でも防ぐ意味で同省使用の石炭について内地産炭よりも三圓乃至四圓割安で

かつ良質の撫順炭を購入する計畫を立て過般

來十河經理局長を滿洲に出張せしめて關係者と交渉に當らしめて居るが同省一年の消費高は三百萬トンで全

内地産炭

であるからこれが實現を見る時は多大の利益を擧げ得べくこれ

有力な労働組合出現か 常磐地方には 二萬人に近い労働者

社會局參與官會議に諮問された労働組合法案は資本家にとつては多大の脅威となるべくまた普選のことなれば議會解散後の總選舉にはその向背は相當

影響す

るものと見られてゐるがこれが實現の上はこれまで厄介視されてゐた労働組合が法人として取扱はれ労働者が組合員たるの故を以て解雇し得ざらしめ團体的に労働



家庭欄

芋のフライ

ツツマ芋には良好な甘味と風味とを有するに拘はらず従來あまり上品な食品として扱はないのは遺憾であり

が爲めに内地石炭會社も甚大な影響を受くべくまた炭價にも相當關係を有するところであるから當然産炭業者の反對を引起すべく

觀測され 居る、しかしこれが實現の上最も打撃を受けるのは常磐地方の石炭會社で特に磐城炭礦及び入山探炭の兩會社はその産炭の六七割を鐵道省に納入してゐるからこの成行は重大視されてゐる

契約を なさじむる等すべてが労働者にとつて有利なことであるから從來組合組織のなかつた常磐地方の炭坑界にもその出現を見るかも知れない同地方の炭坑關係の労働者は

七八千

はありそれに日立鹽山にも一萬人からゐる最近では周圍の事情から一部の者は相當階級意識に目ざめて來たからこの法案が實施される様になれば

ます。それは料理上の缺點もあるやうです。單に蒸して食し或はキントンの衣、焼芋、揚芋などですがこれを種々に考へてよりよく美味にして調理すれば上等の食品が出来上ります。なほ

芋のフライ

芋の皮をむきアララ大に四角に切り

それに刺激されて有力な労働組合が出来るものと觀測されてゐる

柔道猛練習 本日から開始

磐城柔道會に於ては本日より向ふ五日間警察署道場にて柔道の猛練習を爲す事となつたが時間は毎日午後七時から午後十時迄で左記の諸氏が指導の任に當り會員以外練習希望者も入會金一圓にて觀迎すると

小野田炭礦の 家庭醫學 修業式舉行

石城郡磐城村小野田炭礦に於ては本縣主催家庭醫學講習會を廿四日より開會中の處昨廿六日終了したるを以つて午後三時講習生に對し修業證書授與式を擧げたが講習生八十五名で修業證書を授與されたのは五十六名である

豊間燈臺に 霧笛を設備 工費三千圓

石城郡豊間村漁業組合長佐藤之丞氏等發起と成今同村鹽谷岬燈臺に霧笛を設備せんとて計劃中の由で有るが工費は約三千圓であると

耳の鬼 數十萬羽の雀 廿五日午後五時ごろ 豊橋市の上空を南から北へ數十萬の

すすめが眞つ黒になつて飛び去つたので市民が奇異の思ひをしたが何づれか合戦があつたらしい

自強術講習 會則を決定 會費は無料

平町に於ける自強術講習會は昨報の如く卅日午後七時より郡會議室にて開かれる筈であるが自強術の練習は永久に續かしためたいとの事から先づ平自強會を設立し會長に山崎清三氏、常任幹事に藤田榮助、田榮榮一、馬目武之助、緑川喜三郎、川崎文治、の諸氏其他委員を擧げ會則を定めたが其摘要は左記の如くである、

年金の増額 望みの少ない運動 石城に約三百人

し會員は東京本部發行に係る雑誌「自強」を購読する義務を有します 三、入會も脱會も御自由です

武勳を語る

近來地方在住豫備軍人や在郷軍人が盛んに中央に押掛け賞勳局や恩給局を訪れ勳章年金の増額運動を試みつゝある一体金鶏勳章の所持者は尉官や佐官に多く現在では佐官としての功四級が五百圓で石城郡では僅に二名に過ぎぬが増額

年額も 三萬數千圓 (内平局扱ひは百六十二人 一萬八千四百八十八圓) の多額に上つて居る、而も軍人上りの故加藤友三郎子や山

受領者 僅々五指を屈するに足らなかつたが日露戰役後は陸軍で功四級

二人、功五級十一人、功六級十三人、功七級二百五十四人、海軍功七級十三人、と云ふ増加である

入選講家が 席上無料揮毫

東洋美術革新會主催紙本書頒布會は廿九日午前九時より住吉屋本店に於て開催される筈であるが東都知名の入選講家四名來平會員に對して席上無料揮毫の求めに

要求に 耳を傾け果してこれが増額を斷行すべく豫算に計上するかどうかわからないと觀察しつつある向きが多い

本内閣の時代ならいざ知らず、いまの加藤内閣ではこれ等の

要求に 耳を傾け果してこれが増額を斷行すべく

豫算に計上するかどうかわからないと觀察しつつある向きが多い